

日 本 史

〔 I 〕 古代の皇位継承の争いについて説明した以下の (1) ~ (4) の文章を読み、
【設問 1】【設問 2】 に解答せよ。なお、同一記号の空欄には同一の語句が入る。

(45点)

- (1) 用明天皇が死去したのち、蘇我馬子に対抗しようとする (a) は皇位を狙う穴穂部皇子の擁立をはかったが、馬子は穴穂部皇子を殺害したのち、泊瀬部皇子・竹田皇子・ (ア) 皇子や群臣を率いて (a) の本拠のあった河内国に向かい、これを攻め滅ぼした。

その結果、泊瀬部皇子が即位して (イ) 天皇となったが、 (イ) もしだいに専権を握る馬子を憎むに至ったため、馬子の命を受けた東漢駒に殺害された。これによって (ウ) 天皇が即位し、蘇我馬子や甥に当たる (ア) 皇子によって政治がおこなわれた。

- (2) 近江に都を置いた (エ) 天皇は死にあたって、子息の (オ) 皇子を後継者としたが、弟の大海人皇子が拳兵して大津宮を陥れて皇位につき、 (カ) 天皇となった。

(カ) 天皇の死後、皇后の^{うののきらら}鸕野讃良皇女は、 (カ) と自身の間の子である皇太子 (キ) 皇子の皇位継承を万全のものにしようとして、同じく (カ) の子で、漢詩文のすぐれた作品を残していることでも有名な (ク) 皇子を謀反の咎で逮捕し、死に追い込んだ。しかし、そののち (キ) 皇子が病死してしまったために、鸕野讃良皇女は自ら即位して (ケ) 天皇となった。(カ) (ケ) 両代は、天皇を中心とする律令国家の確立へ向けて大きな進展があった時期だが、皇位継承争いなどによって皇族が死に追い込まれる事例は、以後も引き続いて確認することができる。

- (3) 道鏡を重用した (コ) 天皇の死後、擁立されたのが (エ) 天皇の系譜を引き、 (コ) 天皇の異母姉にあたる井上内親王を后としていた白壁王であった。白壁王は62歳で即位して (サ) 天皇となったのち、井上内親王との間に生まれた他戸親王を皇太子としていたが、やがてこれを廃し

た。この母子はのちに幽閉されて同日に死去しているが、その不自然な死については他殺の可能性が指摘されている。

代わって百済系渡来人の系譜を引く（ d ）との間の子である山部親王が皇太子とされ、のちに即位して（ シ ）天皇となった。（ シ ）は父の代から（ エ ）の血を引く新たな皇統に転換したことを強く意識しており、遷都や征夷などの大事業をおこなった。しかし、皇位継承をめぐる争いは引き続き^eみられ、長岡京の造営にあっていた藤原種継が殺害された際に春宮坊の関係者が嫌疑を受けたことをきっかけに、（ シ ）の弟で皇太子であった（ ス ）親王が幽閉されている。そののち（ ス ）は飲食を絶ち、淡路国に配流される途中で亡くなっており、（ シ ）はこの弟の怨霊に悩まされていくこととなる。

- (4) （ シ ）天皇ののち、二人の子息が相次いで即位し、それぞれ（ セ ）天皇・（ ソ ）天皇となった。しかし、（ セ ）上皇が旧都平城京に御幸したのち、遷都の命令を出したことによって両者の関係は破綻し、（ ソ ）天皇は平城京へ軍を派遣。これにより、（ セ ）は出家に追い込まれ、その皇子で皇太子だった高岳親王は^g廃されることとなった。

そののち、譲位によって（ ソ ）の異母弟と子息が相次いで即位して、それぞれ（ タ ）天皇・（ チ ）天皇となったが、（ チ ）天皇の皇太子には（ タ ）上皇の^h子であった恒貞親王が立てられており、（ ソ ）の系統と（ タ ）の系統が迭立する形勢を示していた。ところが、（ ソ ）上皇の没後に（ チ ）天皇は、恒貞親王を奉じた反乱を計画したとして伴健岑らを逮捕し、その際に恒貞をⁱ廃している。

皇位継承をめぐる皇族が死に追い込まれることも多かった（1）～（3）の時期とは異なり、これらの変によって皇太子を廃された高岳親王と恒貞親王は、ともに殺害されることはなかった。最終的には二人とも出家し、僧侶となっている。

- 【設問1】空欄（ア）～（チ）のうち、（イ）・（エ）・（キ）・（ク）・（ケ）・（サ）・（ス）・（ソ）・（タ）にあてはまるものを下記の語群より選び、その記号を解答欄I

一Bに記入せよ。なお、そのほかの空欄にも語群の用語が入るが、その記号を解答として記入する欄はないため注意すること。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1. 有間 | 2. 継体 | 3. 嵯峨 | 4. 推古 | 5. 舎人 |
| 6. 厩戸 | 7. 元正 | 8. 早良 | 9. 崇峻 | 10. 仁明 |
| 11. 大津 | 12. 元明 | 13. 持統 | 14. 崇神 | 15. 仁徳 |
| 16. 大友 | 17. 光孝 | 18. 淳和 | 19. 崇徳 | 20. 敏達 |
| 21. 刑部 | 22. 光厳 | 23. 淳仁 | 24. 清和 | 25. 平城 |
| 26. 桓武 | 27. 孝徳 | 28. 称徳 | 29. 高市 | 30. 文武 |
| 31. 欽明 | 32. 光仁 | 33. 聖武 | 34. 天智 | 35. 文徳 |
| 36. 草壁 | 37. 斉明 | 38. 舒明 | 39. 天武 | 40. 陽成 |

【設問2】以下の設問に答えよ。

- a. 空欄（ a ）について、あてはまる人物名を解答欄 I - A に漢字で記せ。
- b. 下線部 b について、（ ア ）皇子が拠点とし、法隆寺を建立するなどした大和国内の地名を解答欄 I - A に漢字 2 字で記せ。
- c. 下線部 c について、690年に作成された戸籍は人民を統一的に支配する基礎となり、これ以後、年を経るごとに戸籍を作成し、班田をおこなう制度が確立した。空欄に入る数字を、解答欄 I - A に記せ。
- d. 空欄（ d ）について、あてはまる人物名を解答欄 I - A に漢字で記せ。
- e. 下線部 e について、阿豆流為の処刑後に北上川上流（現在の岩手県盛岡市内）に造られた城の名称を、解答欄 I - A に漢字で記せ。
- f. 下線部 f の人物は、いわゆる藤原四子のうちの、ある人物の孫にあたる。その人物名を解答欄 I - A に漢字で記せ。
- g. 下線部 g について、この（ セ ）上皇の孫にあたる人物は皇族出身の氏族のために大学別曹を設置した。その大学別曹の名称を、解答欄 I - A に漢字で記せ。
- h. 下線部 h について、六国史と呼ばれる史書の四番目にあたり、この（ チ ）天皇一代の事跡を記したものは何か。解答欄 I - A に漢字で

記せ。

- i. 下線部 i について、この事件は の変と呼ばれている。空欄に入る語句を、解答欄 I - A に漢字で記せ。

〔Ⅱ〕 次の(1)～(3)の文章は、いずれも村井康彦著『茶の文化史』(岩波書店)の抜粋である(一部表記を変更し、省略した)。この文章を読み、下記設問に答えよ。ただし、同じ記号の空欄には、同じ語が入る。(45点)

- (1) 美術史上で似絵といえは、神護寺に伝えられる源頼朝や 〈イ〉 の画像をはじめ、水無瀬神宮の 〈ウ〉 院の画像、あるいは現宮内庁蔵の天皇摂関大臣列影図巻など(中略)が想起されるが、南北朝時代にその画系が廃れて肖像画としての似絵の語の用法が後退したのにかわって登場するのが、この唐絵の似絵である。似絵とは対象を写實的に描いた絵のことであるから、唐絵そのものを対象とした絵でも、画題や筆様を似せて描けば、それを似絵と称してもおかしくはないわけである。したがって、「此の間障子画これを図書す。当世絵師玉阿これを描く。唐絵山水なり、殊勝なり。客殿以下奇麗壯嚴、目を驚かし了んぬ」(『看聞御記』、応永二十六 [1419] 年二月一日条) という場合の「唐絵山水」はむろん唐絵の似絵である。「日本(ニテ)近日書タル絵」(『教言卿記』 応永十三年八月二十五日条) であった。

【設問ア】 下線部アで、似絵の創始者とされ、神護寺のふたつの画像を描いたと伝えられる、後白河上皇の近臣名を、解答欄Ⅱ - A に漢字4字で記せ。

【設問イ】 空欄〈イ〉に当てはまる、神護寺での伝承にもとづく人物名を解答欄Ⅱ - A に漢字3字で記せ。

【設問ウ】 空欄〈ウ〉に当てはまる上皇の名を、解答欄Ⅱ - A に漢字3字で記せ。

【設問a】 下線部aの後半から享徳年間頃まで活躍し、後に雪舟が学んだ山水画家の名を下記の語群より選び、番号を解答欄Ⅱ - B に記入せよ。

- (2) 書院茶の特徴の一つとして、これに奉仕する者として同朋衆のいたことをあげたが、同朋衆とは將軍に近侍して雑務に当たった一群の法体者たちのこ

とをいい、必ず阿弥号を有していた。座敷飾の規矩^{きく}である『君台観左右帳記』をつくったのが〈 b 〉や相阿弥なら、のちに茶の湯を大成した千利休^エの祖父は、〈 c 〉の同朋衆であった千阿弥と伝えている。(中略)

同朋衆の原像は、鎌倉最末期から南北朝期にかけて、武将に同道した時宗^{オ・カ}の僧、いわゆる従軍僧に求められる。〈 キ 〉上人にはじまる時宗の僧たち——当時これを時衆といった——が武将に従ったのは、宗教的目的、すなわちその最期にあたり十念(念仏^dを十回唱えること)を授けて菩提を弔うためである。これには時衆が他の宗派と違い葬礼や死体の処理に関与したことも無関係ではない。合戦のあと戦傷者の治療に当たるのも、かれら時衆の仕事で、従軍僧はまた従軍医でもあった。(中略)

その名称については、將軍に近侍する「童坊」に由来すると見るより、本来の宗教的意味をもつ「同行同朋」に出るものとすべきである。同朋衆が必ず阿弥号(中略)をもって呼ばれるのもそれであろう。阿弥号は時衆の独占物ではないが、同朋衆は必ず阿弥号をもつのである。しかし、誤解されやすいので付言しておくなら、將軍と関係ふかい人物でも、阿弥号をもつ者がすべて同朋衆であったというわけではない。

(中略)猿樂の〈 e 〉・〈 f 〉を〈 g 〉に引き合わせたのは海老名南阿弥という同朋衆で、これが機縁となって猿樂能が大成されるに至ったことは周知の通りである。この父子の阿弥号は犬王道阿弥とともに〈 g 〉がつけたものであり、〈 f 〉の甥、音阿弥は〈 h 〉の命名になるものと推測されるが、かれらはいずれも同朋衆ではなかった。当時の記録にも「猿樂(者)・同朋(衆)」といった書き方がなされ、両者は区別されている。

【設問 b】空欄〈 b 〉に当てはまる、書画や座敷飾などを管理した同朋衆の名を下記語群より選び、番号を解答欄Ⅱ-Bに記入せよ。

【設問エ】下線部エの千利休が大成した侘び茶を創始した人物の名を、解答欄Ⅱ-Aに漢字4字で記せ。

【設問 c】空欄〈 c 〉に当てはまる、室町幕府將軍の名を下記語群より選び、番号を解答欄Ⅱ-Bに記入せよ。

【設問オ】下線部オの時宗において、鉦や太鼓に合わせて興行し、極楽往生の恍惚感にひたる行為を何というか。解答欄Ⅱ－Aに漢字3字で記せ。

【設問カ】下線部カの、遊行寺とも呼ばれる時宗の中心寺院を、解答欄Ⅱ－Aに漢字4字で記せ。

【設問キ】空欄〈キ〉に当てはまる僧の名を、解答欄Ⅱ－Aに漢字2字で記せ。

【設問d】下線部dについて、時宗同様に念仏を重視し、悪人正機説を説く宗派を下記語群より選び、番号を解答欄Ⅱ－Bに記入せよ。

【設問e・f】空欄〈e〉〈f〉に当てはまる、能楽の大成者の名を下記語群より選び、番号を解答欄Ⅱ－Bに記入せよ。ただし〈e〉は〈f〉の父である。

【設問g】空欄〈g〉に当てはまる、室町幕府三代将軍の名を下記語群より選び、番号を解答欄Ⅱ－Bに記入せよ。

【設問h】本文中、空欄〈h〉に当てはまる、室町幕府六代将軍の名を下記語群より選び、番号を解答欄Ⅱ－Bに記入せよ。

(3) 数多い同朋衆のなかでも、後世に名を残したものとなると、毎阿弥(?－1436)、〈b〉(1397?－71)、芸阿弥(1431－85)、および相阿弥(?－1525)の四代であろう。もと越前〈ク〉氏の家臣であったというが、他の同朋衆と同じく氏素性は明らかでない。〈i〉・〈h〉・〈c〉から義種時代にかけて活躍している。もっとも毎阿弥には文芸上見るべきものはなく、そこでふつうその子〈b〉以下を三代三阿弥と称するが、毎阿弥もその時点ではもっとも信任された公方同朋だった。〈b〉以後の活躍の場はこの毎阿弥が築いたといってよい。(中略)

三阿弥たちは、その職掌上絵画をよくし、「天下の明(名)人」と称されたのが〈b〉なら、「国工」「国手」と呼ばれたのが芸阿弥や相阿弥である。文明十七(1485)年十二月下旬、〈c〉の命で相阿弥は、相国寺の禅僧、亀泉集証・横川景三らと東山山荘に飾る「十僧図」を「評議」し、けっきょく李竜眠様を採用することにしたが(いわゆる似絵)、これが相阿弥の初仕事であった。

ちなみに室町將軍家には、このような同朋衆の働きのもとに数多くの唐絵・唐物が蒐集された。そのことを安土・桃山期の画家長谷川等伯は『等伯画説』のなかで、

東山殿（〈 c 〉）ニハ百カザリ有之、一切ノ唐絵ト云唐絵并見事ナル物ハ、皆東山殿ノ御物也。

と書いている。（中略）

もっとも〈 c 〉時代になると、財政難から公方御倉の唐物を手放すことがあった。寛正六（1465）年六月、父〈 h 〉（普広院殿）二十五年忌の仏事錢を捻出するため、唐物奉行の千阿弥に絵・太刀などを売りに出させているが、そのなかには君沢筆「四幅山水」の図がふくまれていた（『〈 ケ 〉』）。

【設問ク】空欄〈 ク 〉に当てはまる、後に戦国大名としても有名となる一族の名を、解答欄Ⅱ－Aに漢字2字で記せ。

【設問i】空欄〈 i 〉に当てはまる、室町幕府四代將軍の名を下記語群より選び、番号を解答欄Ⅱ－Bに記入せよ。

【設問ケ】空欄〈 ケ 〉には、唐物流出を記す典拠が入る。この相国寺鹿苑院内に設置された寮舎の公用日記の名を、解答欄Ⅱ－Aに漢字5字で記せ。

[語群]

- | | | | | |
|----------|--------|---------|---------|---------|
| 1. 立阿弥 | 2. 義貞 | 3. 明兆 | 4. 世阿弥 | 5. 法華宗 |
| 6. 義政 | 7. 黙庵 | 8. 義持 | 9. 能阿弥 | 10. 臨濟宗 |
| 11. 周文 | 12. 義視 | 13. 善阿弥 | 14. 義教 | |
| 15. 浄土真宗 | 16. 如拙 | 17. 義量 | 18. 観阿弥 | 19. 義満 |
| 20. 曹洞宗 | | | | |

〔Ⅲ〕 次の（1）（2）の文章は、近世から近代にかけての経済や社会の動きについて述べたものである。これを読んで、以下の設問 a～w に答えよ。（60点）

（1）農民から年貢を取り立てることを財政の基盤とする幕藩体制は、18世紀後半から19世紀にかけて相次いだ飢饉などによって各地で行きづまりを顕在化

させた。北関東の常陸・下野両国の人口は、享保年間（18世紀前半）に比べて19世紀中頃には約30%減少し、田畑が荒廃する現象が見られた。

こうした農村経済の動揺に対して、相模国の農民の子として生まれた〔 a 〕は、勤労・儉約を中心とする復興策を推進した。また、尾張藩士の家に生まれたとの伝承を持つ〔 c 〕は、全国各地を放浪した後、下総国に定住し、道徳と経済の調和を説き、農民の相互扶助や生活改善を奨励した。それ以外にも、出羽国久保田藩で原野開墾に取り組んだ渡部斧松など、各地で篤農家や農政家が活躍した。

また、農業生産の増大を図るために農書が編まれ、各地で読まれたのもこの時代であった。『農具便利論』や『〔 e 〕』を記した大蔵永常もその一人であった。永常は、1834年に三河国田原藩に登用されるが、そのきっかけをつくったのは、同藩の江戸詰家老だった〔 f 〕といわれる。しかし、永常登用の5年後には、〔 f 〕が蚕社の獄に連座したため、永常も同藩を去ることになった。

〔 f 〕は、はじめ〔 g 〕に画才を認められたが、次第に写実的な洋画の技法を学ぶようになり、独自の画風を確立した。また、洋画への傾倒は蘭学に対する関心へとつながり、小関三英らを介して海外事情の吸収にも努めた。しかし、そうした活動が幕府の儒者らの忌避するところとなり、ひいては蚕社の獄の一因になったといわれる。

【設問 a】〔 a 〕は、小田原藩をはじめ関東一円で荒村復興に尽力した農政家のことである。空欄〔 a 〕に入る人物名を解答欄Ⅲ-Aに漢字4字で記せ。

【設問 b】下線部 b は、〔 a 〕が実践した農村復興策のことである。その名称として適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄Ⅲ-Bに記入せよ。

- | | |
|-----------|---------|
| 1. 班田収授法 | 2. 報徳仕法 |
| 3. 地方改良運動 | 4. 七分積金 |

【設問 c】〔 c 〕は、先祖株組合の創設や農業技術の指導などによって荒村復興に尽力した。空欄〔 c 〕にあてはまる人物名を解答欄Ⅲ-Aに漢字

4字で記せ。

【設問 d】 下線部 d は、〔 c 〕が提唱した独自の実践思想のことである。その名称として適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 性学 2. 心学 3. 折衷学 4. 南学

【設問 e】 〔 e 〕は数多くの農書を記した大蔵永常の集大成ともいわれ、果樹や茶、養蚕などといった工芸作物の栽培や製造方法について解説し、各藩の特産物育成を奨励した書物として知られる。空欄〔 e 〕にあてはまる書名を解答欄Ⅲ－Aに漢字5字で記せ。

【設問 f】 〔 f 〕は、江戸在住の知識人の集まりだった尚歯会の常連となるなど、学問や芸術にも力を入れた。空欄〔 f 〕にあてはまる人物名を解答欄Ⅲ－Aに漢字4字で記せ。

【設問 g】 1763年に生まれた〔 g 〕は、狩野派、円山派、南画などを広く学び、江戸で一派をなした。風景画に秀で、「公余探勝図」を描いたほか、「木村蒹葭堂像」などといった肖像画も多く残した。空欄〔 g 〕にあてはまる人物名を解答欄Ⅲ－Aに漢字で記せ。

【設問 h】 下線部 h の技法を取り入れた作品としては、古河藩の家老を描いたとされる肖像画が知られている。この家老の人物名を解答欄Ⅲ－Aに漢字4字で記せ。

- (2) 「予は下野の百姓なり」、これは、田中正造が自らの半生を綴った「田中正造昔話」冒頭の小見出しである。文章はその後、「天保12年11月を以て阿蘇の郡〔注〕小中村に生る、幼名は兼三郎と呼び、父は富蔵、母はさきと云ふ、祖父正造より名主を勤めて家世々六角家に属せり」と続く。これによれば、田中家は祖父の代から高家六角家の領地の名主を勤める家柄で、孫の正造も若くして名主を勤めることになった。そこで、幕末維新期に村民を代表して六角家に対してさまざまな要求を行ったことから弾圧を受けた。その後、紆余曲折があったが、1878年には区会議員、1880年には県会議員となるなど、次第に政治家としても頭角を現した。1882年、〔 1 〕が結成されるとその年のうちに党员となった。

ところで、1876年から山形県令として土木行政などに力を入れていた〔 m 〕は、1882年から自由民権運動が盛んだった〔 n 〕県の県令も兼ねるようになり、そこでも道路建設工事などを押し進めた。1882年7月、折田平内が山形県令に任じられたため、〔 m 〕は〔 n 〕県の県令に専念するが、その強引な政治手法に対して、〔 n 〕県の県会議員や農民らは激しく抵抗し、同年末には県会議長まで検挙されるにいたった。その後、〔 m 〕は田中正造が県会議員をつとめる地域の県令を兼任し、ここでも強引な道路開発を進めようとしたため、正造らとも対立することになった。

ところで、地方政治家の田中正造の名を一躍世に高からしめたのは、足尾鋳毒事件との関わりであった。足尾銅山は、幕末には廢鋳同然であったが、1877年に〔 q 〕が経営に関わるようになり、6年後には製銅額が数十倍にまでなった。その結果、下流の渡良瀬川流域に鋳毒が広がり、農業・漁業に大きな被害が出るようになった。1896年の大洪水の際には流域一帯の農作物や家畜だけではなく、人体にも影響が及んだ。そこで、被害地域の農民らは、1897年以来数次にわたって陳情を試み、1900年には警官隊と衝突するにいたる。衆議院議員となっていた正造は、国会でもこの問題を取り上げ、操業停止を迫った。また、島田三郎や木下尚江らとともに世論の喚起に努めた。こうした世論におかれて、政府は鋳毒調査会を設けて鋳毒予防工事を銅山に指示したが、操業停止は求めなかった。そこで、正造は議員を辞職して天皇に直訴しようとするなど、農民と一緒に粘り強く運動を続けた。

こうした動きに対し政府は、渡良瀬川と利根川の合流点に近い〔 t 〕村の村民を他に集団移転させて廢村にし、その地域一帯に遊水池を造成する計画を進めた。しかし、正造は、鋳害の根本を絶たずに、廢村などという形で農民らに負担を強いる計画に対して抗議の意志を示すために〔 t 〕村に住み続けた。また、この村の破壊を世間に伝えるため、〔 u 〕にルポルタージュの執筆を依頼した。こうした経緯から、1907年に出版されたのが『〔 t 〕村滅亡史』である。

足尾鋳毒事件をめぐる田中正造の取り組みは、第二次世界大戦後、高度経済成長のもとで日本列島が急速に工業化を進めた結果として各地で公害問題

が顕著になると、あらためて注目されるようになった。これらの公害問題に対する反省と生活環境に対する関心の高まりから、1967年には〔 w 〕法が制定された。

〔注〕安蘇郡のこと。

【設問 i】田中正造が生まれた下線部 i の下野国は、現在の都道府県名でいえばおおむねどこに該当するか、その都道府県名として適当なものを下の選択肢から選んで、その記号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 東京 2. 神奈川 3. 群馬 4. 栃木

【設問 j】下線部 j の高家とは、江戸幕府における儀式や典礼を司る役職で、旗本の中でも独自の地位を占めていた。六角家もそのひとつであるが、元禄年間に播磨国赤穂藩主に江戸城内で切りつけられたのも高家であった。このときに切りつけられた人物名として適当なものを下の選択肢から選んで、その記号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 由井正雪 2. 堀田正俊 3. 田沼意知 4. 吉良義央

【設問 k】下線部 k の名主とは、主として関東の農村部で村の代表者を指す呼称である。この名主の補佐役で、名主、百姓代とともに村方三役のひとつとされる役職は何か。その名称として適当なものを下の選択肢の中から選んで、その記号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 組頭 2. 戸長 3. 町年寄 4. 庄屋

【設問 l】〔 l 〕は、自由民権運動の流れを汲み、明治十四年の政変で下野した官僚らを中心に1882年に結成された政党である。空欄〔 l 〕にあてはまる政党名を解答欄Ⅲ－Aに漢字5字で記せ。

【設問 m】〔 m 〕は、酒田県令時代にわっば騒動を鎮圧し、各地で県令をつとめた後、警視總監として保安条例を施行したことで知られる。空欄〔 m 〕にあてはまる人物名を解答欄Ⅲ－Aに漢字で記せ。

【設問 n】〔 n 〕県では、会津若松と今市・米沢・水原などを結ぶ道路建設を強引に進めようとする県政に対する反発から自由民権運動が激しく展開した。空欄〔 n 〕にあてはまる県名を解答欄Ⅲ－Aに漢字2字で記せ。

【設問 o】この激化事件の際に、〔 n 〕県において下線部 o の県会議長をつ

とめており、激化事件の首謀者として検挙された人物名を解答欄Ⅲ－Aに漢字で記せ。

【設問 p】 下線部 p の足尾銅山は1610年に発見されたと伝えられ、幕府の御用山として17世紀に最盛期を迎えたという。同じく江戸時代に開発され、大坂の泉屋によって経営された銅山を何というか。その名称を下の選択肢から選んで、その記号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 三池炭鉱
2. 尾去沢銅山
3. 別子銅山
4. 小坂銅山

【設問 q】 京都の生糸商人小野組で働いていた〔 q 〕は、足尾銅山や阿仁鉱山といった鉱山の経営を事業の中心として台頭し、のちには財閥を形成した。空欄〔 q 〕にあてはまる人物名を解答欄Ⅲ－Aに記せ。

【設問 r】 幕府の御家人の子として生まれた下線部 r の島田三郎は、新聞社でも活躍しながら、政治の世界に進出し、廃娼運動に取り組んだ。島田三郎が論陣を張った新聞は、日本最初の日刊邦字紙で、鉛製の活字を用いたことでも知られているが、この新聞の名称を下の選択肢から選んで、その記号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 国民新聞
2. 横浜毎日新聞
3. 時事新報
4. 朝野新聞

【設問 s】 キリスト教徒であり、ジャーナリストとしても知られた下線部 s の木下尚江は、1901年には社会民主党の結成に参加した。この時創立者は6人だったと伝えられるが、下の選択肢のうち、その6人に含まれないのは誰か。その記号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 高野房太郎
2. 片山潜
3. 安部磯雄
4. 幸徳秋水

【設問 t】 渡良瀬川などの合流点にあった〔 t 〕村一帯は、肥沃で農業に適した土地として知られていた。政府は鉱毒を沈澱させるために遊水池造成を計画するが、この地域の農民の反対は強かった。空欄〔 t 〕にあてはまるこの村の名称を解答欄Ⅲ－Aに漢字で記せ。

【設問 u】 〔 u 〕は、横浜に生まれ、堺利彦や幸徳秋水に共鳴して平民新聞に参画した。この人物名として適切なものを下の選択肢から選んで、その記号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 横山源之助 2. 徳富蘇峰 3. 荒畑寒村 4. 山本作兵衛

【設問 v】 下線部 v の公害問題は、第二次世界大戦後、社会問題として注目されるようになるが、それらのうちメチル水銀に汚染された魚介類を食べたことから広がり、1968年に公害病に認定されたものは何か。その名称を解答欄Ⅲ－Aに漢字で記せ。

【設問 w】 1967年に制定されたこの法律は、1993年に地球環境問題をも盛り込んだ環境基本法に引き継がれた。空欄〔 w 〕にあてはまるこの法律の名称を解答欄Ⅲ－Aに漢字で記せ。